

森を守りたい

昭和30年代あたりまで、人々は里山に入り、薪や炭を作るために木を伐りました。

また、草を刈って家畜の飼料とし、落葉を田畑の肥料とするなど、里山に依存する生活が長く続きました。このことが、自然に里山の手入れとなり、健全な里山が維持されてきたのです。

ところが、高度経済成長とともに人々の生活スタイルが大きく変わり、人が里山へ入らなくなった結果、里山は木や草が茂り放題の暗い山になり、本来奥山で生活していたイノシシやクマなど野生動物が棲み着くようになり、人里に出て悪影響を及ぼすようになったのです。

また、森が持っている水源涵養、土砂流出防備、二酸化炭素の吸収固定などの機能も十分に発揮されなくなっています。

こういった現状に対し、里山の保全や積極的活用に取り組む各種団体、グループが相当数見られるようになってきました。

私たち森林インストラクターも、何かのお役に立ちたいと考えています。

